

《担当者名》○武田涼子 吉田晋

【概要】

理学療法・作業療法の対象となる運動や動作の障害は、筋や骨関節といった効果器の障害によるものから、脊髄や小脳などの下位運動中枢、一次運動野や補足運動野、運動前野といった上位中枢の神経障害、さらには呼吸循環機能によるものまで幅広い。本科目では疾病や外傷などにより生じた運動障害や異常歩行などの動作障害について、その特徴および発生メカニズムについて基本的知識を習得するとともに、運動学的分析手法について学修する。

【学修目標】

様々な疾患や障害によって生じる活動制限を機能障害レベルでとらえるための分析能力を身につける。

1. 各種運動障害に応じた適切な評価方法を選定することができる。
2. 運動障害の原因となる病態について説明できる。
3. 代表的な疾患の特徴的な運動障害についてその特徴を挙げて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	運動障害の測定と評価1	問診、理学所見や動作観察といった臨床現場で行われる運動障害の評価方法について学ぶ。	武田涼子
2	運動障害の測定と評価2	観察による動作分析の手順を学ぶ。 多くの人がとる動作パターンとそこから逸脱したと判断するための運動学的因子と機能障害の推定過程を学ぶ。	武田涼子
3	運動障害の測定と評価3	観察による動作分析の手順を学ぶ。 動画から患者の運動分析を実践する。	武田涼子
4	運動器障害の病態と運動障害1	骨折や軟部組織損傷に寄って生じる関節可動域制限、筋力低下、疼痛など運動器疾患に生じる機能障害と運動の関連を学ぶ。	武田涼子
5	運動器障害の病態と運動障害2	脊柱疾患によって生じる機能障害と運動の関連を学ぶ。	武田涼子
6	運動器障害の病態と運動障害3	運動器障害によって生じる動作パターンの変化の代表例について観察による分析を実践する。	武田涼子
7	運動器障害の病態と運動障害4	運動障害によって生じる特徴的な異常歩行について学ぶ。	武田涼子
8	中枢神経障害の病態と運動障害1	反射・筋緊張異常の原因および反射・筋緊張異常による運動障害の特徴について学ぶ。	吉田晋
9	中枢神経障害の病態と運動障害2	運動麻痺の原因および運動麻痺による運動障害の特徴について学ぶ。	吉田晋
10	中枢神経障害の病態と運動障害3	協調運動障害や不随意運動の原因および運動障害の特徴について学ぶ。	吉田晋
11	中枢神経障害の病態と運動障害4	感覚障害の原因および運動障害の特徴について学ぶ。	吉田晋
12	中枢神経障害の病態と運動障害5	脳血管障害によって生じる特徴的な異常動作について学ぶ。	吉田晋
13	中枢神経障害の病態と運動障害6	パーキンソン病によって生じる特徴的な異常動作について学ぶ。	吉田晋
14	中枢神経障害の病態と運動障害7	小脳疾患によって生じる特徴的な異常動作について学ぶ。	吉田晋
15	中枢神経障害の病態と運動障害8	脳性麻痺などの発達障害によって生じる特徴的な異常動作について学ぶ。	吉田晋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・定期試験 100%（定期試験の受験資格は学則に準ずる。）
- ・定期試験および追再試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

【学修の準備】

- ・指定教科書と、指定する疾患について講義内容を踏まえて臨むこと。（予習20分）
講義時に提示する教科書の指定ページについて読んでから臨むこと。
2学年で学習した疾患の病態について復習してから臨むこと。原因となる疾患や症状について、「どのような病因で、どこにどのような病理変化が生じ、どのような病気が発現するのか」という因果関係について整理すること。
- ・講義時に配布した講義資料、講義メモ、ならびに教科書、参考図書を活用して、病気の結果生じる機能障害と正常から逸脱した運動について整理すること。運動分析の方法について整理すること。（復習20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。